

Ⅲ 手帳非所持者調査の結果

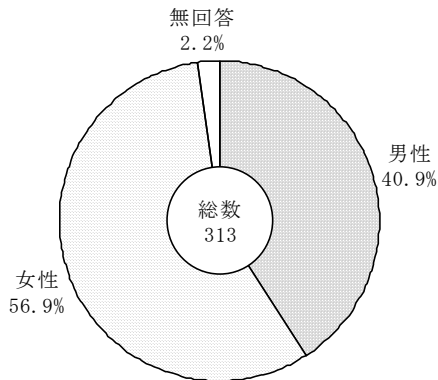
1 対象者の属性

(1) 性別・年齢

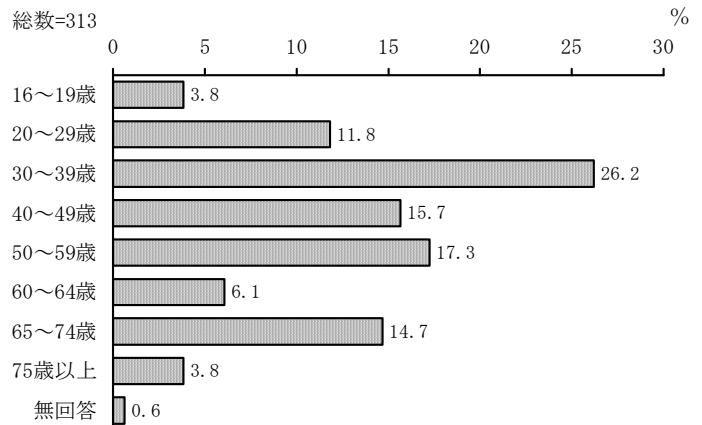
○性別では、対象者の約 57%を女性が、約 41%を男性が占めている。

○年齢では、30 歳代が約 26%で比較的多く、65 歳以上の高齢者は約 19%となっている。

問 1. (1)性別



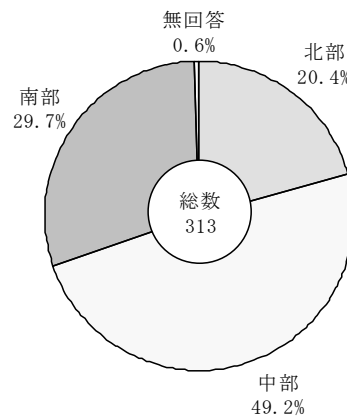
(2)年齢



(2) 住まいの地域

○住まいの地域は、中部が約 49%とほぼ半数を占め、南部が約 30%、北部が約 20%である。

問 2. 住まいの地域

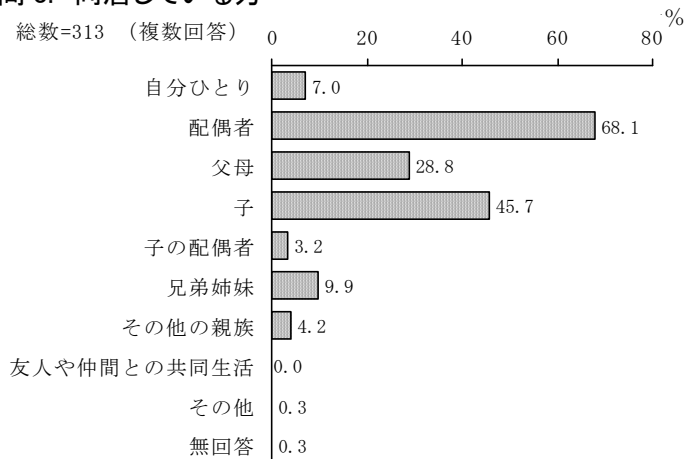


※地域区分については p92 を参照

(3) 同居している方

○同居家族としては、配偶者 (約 68%)、子 (約 46%) を挙げる割合が高く、核家族が多いことがうかがえる。自分ひとは 7%となっている。

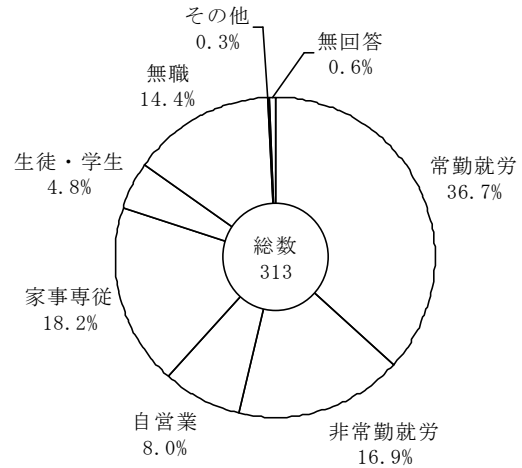
問 3. 同居している方



(4) 職業

○回答者の約37%が常勤就労である。ついで、家事専従が約18%、非常勤就労（いわゆるパート、アルバイトなど）が約17%、無職が約14%、自営業が約8%となっている。学生は約5%で少数である。

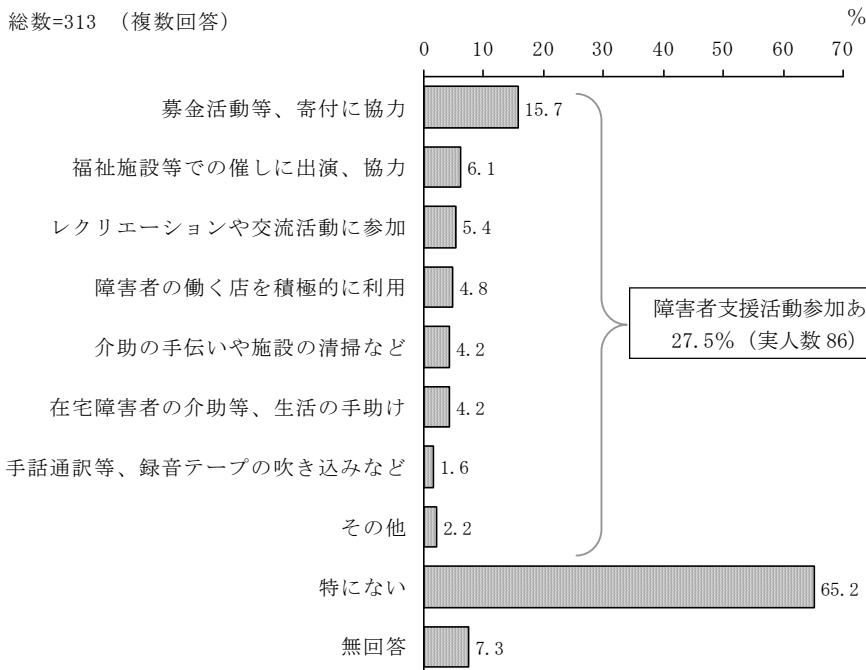
問4. 職業



(5) 障害者を支援する活動の経験

- これまでに障害者を支援する活動に参加した経験は「特にない」とする割合が約65%で多くなっている。
- 一方、障害者を支援する活動として最も参加の多いもの（複数回答）は、「募金活動等寄付に協力」（約16%）で、「福祉施設等での催しに出演、協力」、「レクリエーションや交流活動に参加」「障害者の働く店を積極的に利用」など、障害者と直接の交流のある活動は5%前後となっている。

問14. 障害者を支援する活動の経験



2 健康・福祉に対する関心について

(1) 要介護認定

- 40 歳以上の人で要介護認定を受けている人はきわめて少なく、「受けていない」とする割合が 96%と大部分を占めている。手帳所持者と比較して、「受けていない」割合が 30 ポイント高い。
- 65 歳以上の回答者においても、「受けていない」が約 91%となっている。

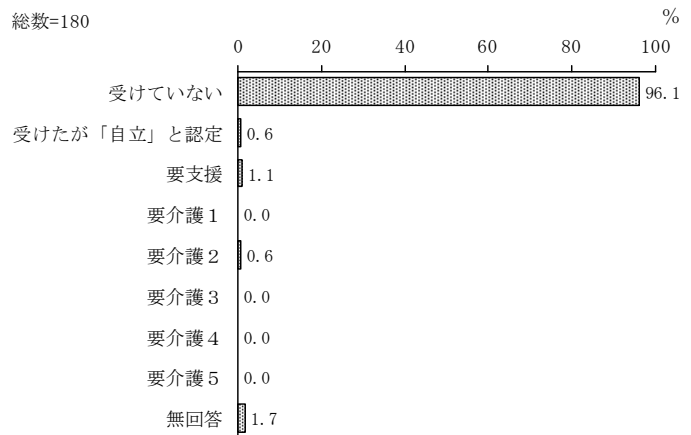
(2) 介護が必要な家族の有無

- 要介護の家族が「いる」人は 5%程度を占める。手帳所持者全体と比較して、「いる」割合は 10 ポイント程度低くなっている。

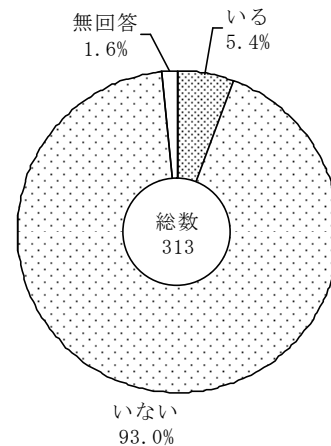
(3) 健康状態

- 健康状態の「よい」人は約 51%、「どちらかというといよい」が約 34% で、あわせて 8 割を超える人は健康状態が良好としている。なお、「どちらかというとい悪い」、「悪い」は、あわせて 14%程度となっている。
- 健康状態（「よい」と「どちらかというといよい」の計）が良好とする割合は、手帳所持者全体では約 67%であり（p11 参照）、20 ポイント近く上回っている。

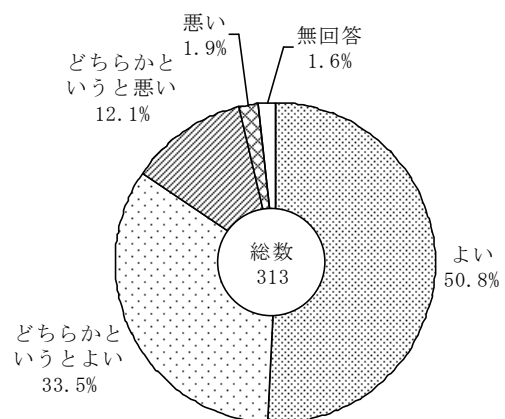
問 5. 要介護認定



問 6. 介護が必要な家族の有無



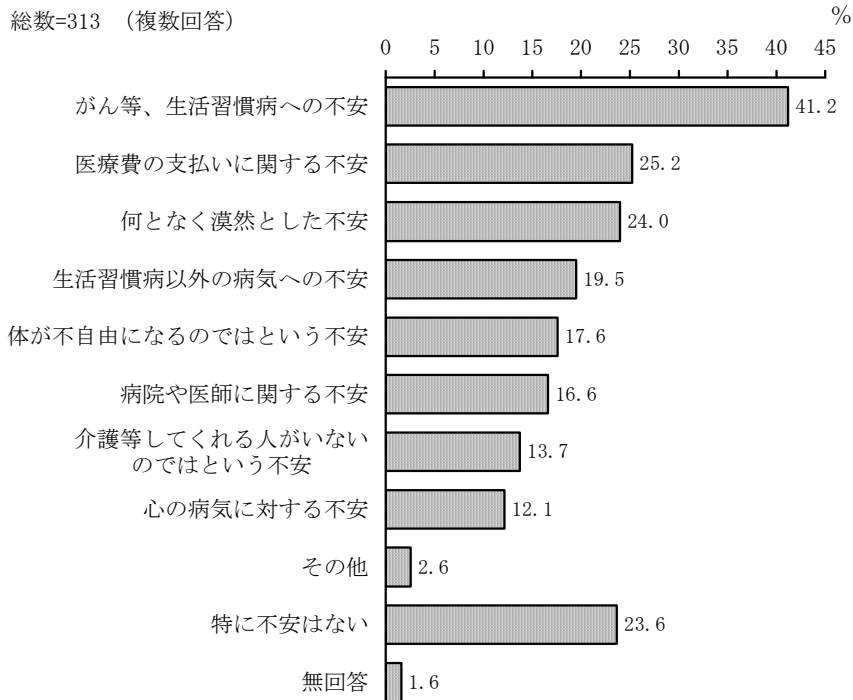
問 7. 健康状態



(4) 健康について不安を感じていること

- 健康の不安については、全体では「がん等、生活習慣病への不安」が最も多い。
- 年齢別にみると、生活習慣病への不安は40歳代以上で高い。65歳以上では「体が不自由になるのではという不安」を挙げる割合が約36%と急激に高くなっている。

問 8. 健康について不安を感じていること



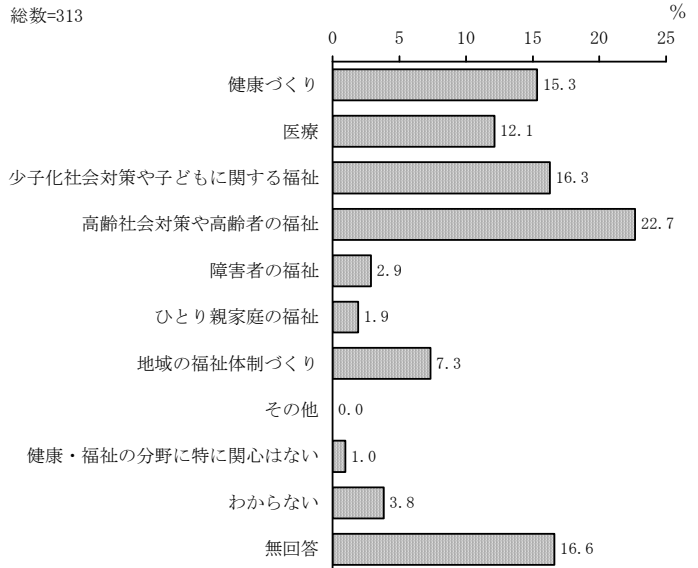
問 8. 健康について不安を感じていること × 年齢別

		全体 (0)	がん等、 生活習慣 病への不安 (1)	生活 習慣 病以外 の不安 (2)	心の 病気 に対する 不安 (3)	体が 不自由 になる のでは という 不安 (4)	介護等 してく れる人 がいない のでは という 不安 (5)	病院や 医師に 関す る不安 (6)	医療費 の支払 いに関 する不 安 (7)	何となく 漠然とし た不安 (8)	その他 (9)	特に 不安は ない (10)	無回 答 (11)
全体 (0)		313 100.0	129 41.2	61 19.5	38 12.1	55 17.6	43 13.7	52 16.6	79 25.2	75 24.0	8 2.6	74 23.6	5 1.6
年齢	16～29歳 (1)	49 100.0	11 22.4	6 12.2	10 20.4	6 12.2	3 6.1	6 12.2	10 20.4	12 24.5	2 4.1	18 36.7	2 4.1
	30～39歳 (2)	82 100.0	32 39.0	13 15.9	10 12.2	8 9.8	10 12.2	16 19.5	21 25.6	17 20.7	2 2.4	23 28.0	3 3.7
	40～49歳 (3)	49 100.0	26 53.1	12 24.5	6 12.2	7 14.3	7 14.3	4 8.2	11 22.4	12 24.5	2 4.1	8 16.3	-
	50～59歳 (4)	54 100.0	26 48.1	14 25.9	5 9.3	9 16.7	9 16.7	14 25.9	15 27.8	18 33.3	-	11 20.4	-
	60～64歳 (5)	19 100.0	7 36.8	2 10.5	3 15.8	3 15.8	3 15.8	2 10.5	5 26.3	3 15.8	-	5 26.3	-
	65歳以上 (6)	58 100.0	27 46.6	14 24.1	4 6.9	21 36.2	11 19.0	10 17.2	16 27.6	13 22.4	2 3.4	8 13.8	-
	無回答 (7)	2 100.0	-	-	-	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-	1 50.0	-

(5) 特に関心がある健康・福祉の領域

○全体では「高齢者対策や高齢者の福祉」についての関心が最も高く、約 23% となっている。一方、障害者の福祉についての関心は 3% で相対的に低い。

問 9. 特に関心がある健康・福祉の領域



○属性別に見ると、女性よりも男性で、「障害者の福祉」に対する割合がわずかな差ではあるが、高くなっている。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層 (p60 参照) で比較すると、「ある」層が「ない」層をわずかに上回っている。

問 9. 関心がある健康・福祉分野×性別・年齢別・支援活動別

		全体	健康づくり	医療	少子化社会対策や子どもに関する福祉	高齢社会対策や高齢者の福祉	障害者の福祉	ひとり親家庭の福祉	地域の福祉体制づくり	その他	健康・福祉の分野に特に関心はない	わからない	無回答
		(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
全体 (0)		313 100.0	48 15.3	38 12.1	51 16.3	71 22.7	9 2.9	6 1.9	23 7.3	-	3 1.0	12 3.8	52 16.6
性別	男性 (1)	128 100.0	23 18.0	19 14.8	16 12.5	31 24.2	6 4.7	3 2.3	8 6.3	-	3 2.3	4 3.1	15 11.7
	女性 (2)	178 100.0	23 12.9	16 9.0	35 19.7	40 22.5	3 1.7	3 1.7	14 7.9	-	-	8 4.5	36 20.2
	無回答 (3)	7 100.0	2 28.6	3 42.9	-	-	-	-	1 14.3	-	-	-	1 14.3
年齢	16~29歳 (1)	49 100.0	4 8.2	3 6.1	12 24.5	5 10.2	2 4.1	1 2.0	5 10.2	-	1 2.0	3 6.1	13 26.5
	30~39歳 (2)	82 100.0	9 11.0	12 14.6	25 30.5	13 15.9	3 3.7	2 2.4	1 1.2	-	-	2 2.4	15 18.3
	40~49歳 (3)	49 100.0	10 20.4	7 14.3	7 14.3	7 14.3	1 2.0	2 4.1	5 10.2	-	-	1 2.0	9 18.4
	50~59歳 (4)	54 100.0	12 22.2	4 7.4	5 9.3	17 31.5	2 3.7	1 1.9	4 7.4	-	1 1.9	4 7.4	4 7.4
	60~64歳 (5)	19 100.0	3 15.8	3 15.8	2 10.5	3 15.8	-	-	3 15.8	-	-	-	5 26.3
	65歳以上 (6)	58 100.0	9 15.5	9 15.5	-	26 44.8	1 1.7	-	4 6.9	-	1 1.7	2 3.4	6 10.3
	無回答 (7)	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-
支援活動	障害者支援活動参加あり (1)	86 100.0	13 15.1	9 10.5	14 16.3	23 26.7	5 5.8	2 2.3	9 10.5	-	1 1.2	-	10 11.6
	障害者支援活動参加なし (2)	204 100.0	31 15.2	27 13.2	35 17.2	41 20.1	4 2.0	4 2.0	12 5.9	-	2 1.0	12 5.9	36 17.6
	無回答 (3)	23 100.0	4 17.4	2 8.7	2 8.7	7 30.4	-	-	2 8.7	-	-	-	6 26.1

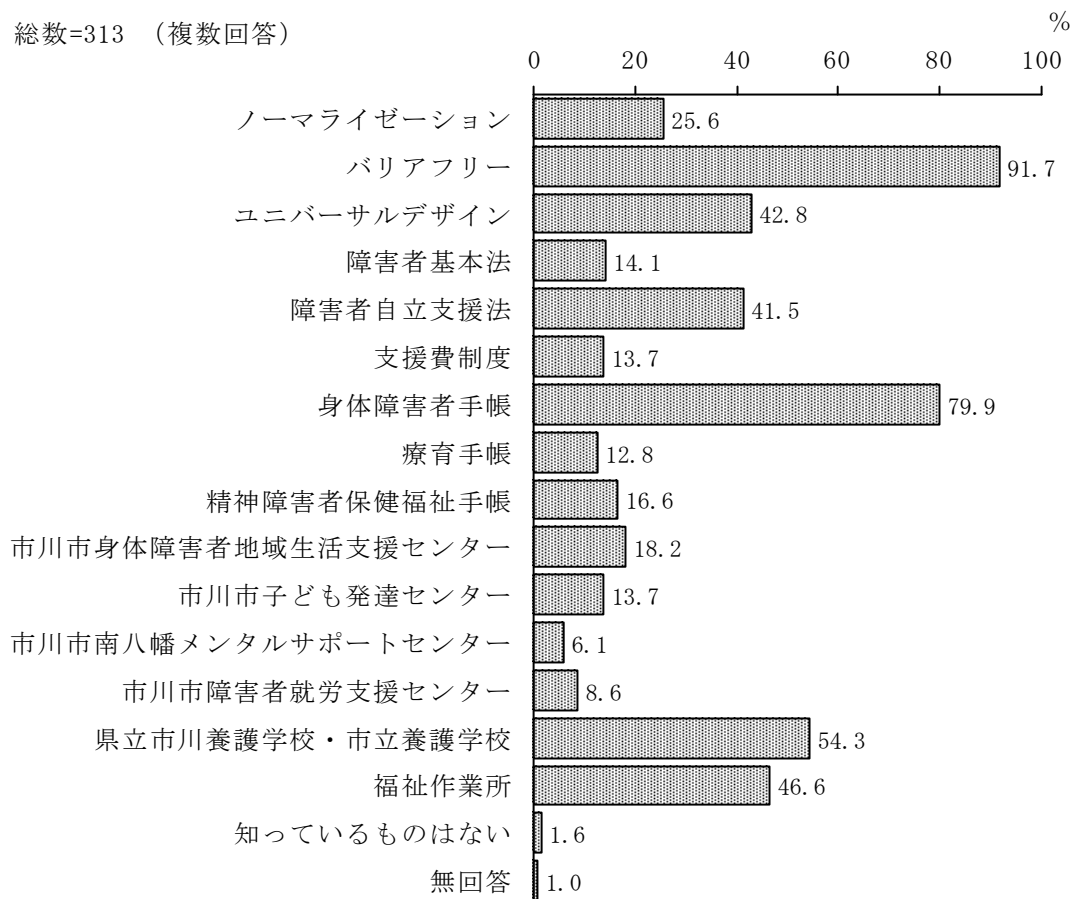
3 日常生活における障害者との関わりについて

(1) 知っている言葉

- 障害者福祉に関連する用語（15の語句）のなかで知っているものとしては、全体では「バリアフリー」を挙げた割合が92%と高い割合になっており、ほぼ定着していると言える。
- 障害者福祉の理念を示す「ノーマライゼーション」を挙げた割合は約26%で、理解の普及が今後の課題となっている様子が見える。
- 「身体障害者手帳」はよく知られているが（約80%）、「療育手帳」、「精神障害者保健福祉手帳」はともに全体では10%台となっており、十分に知られていない。
- 福祉施設のなかで、「福祉作業所」や「（県立、市立）養護学校」は全体で半数前後と認知度が高くなっているが、身体障害者地域生活支援センターなど、その他の施設については、十分に知られていない。

問 10. 知っている言葉

総数=313（複数回答）



○属性別に見ると、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインなど、外来の用語は若年層で認知度が高く、施設、養護学校、福祉作業所については40歳代、50歳代で高い傾向が見られる。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層で比較すると、全般的に「ある」層が高い割合になっている。福祉作業所と養護学校については、「ある」層と「ない」層の差がとくに大きい。

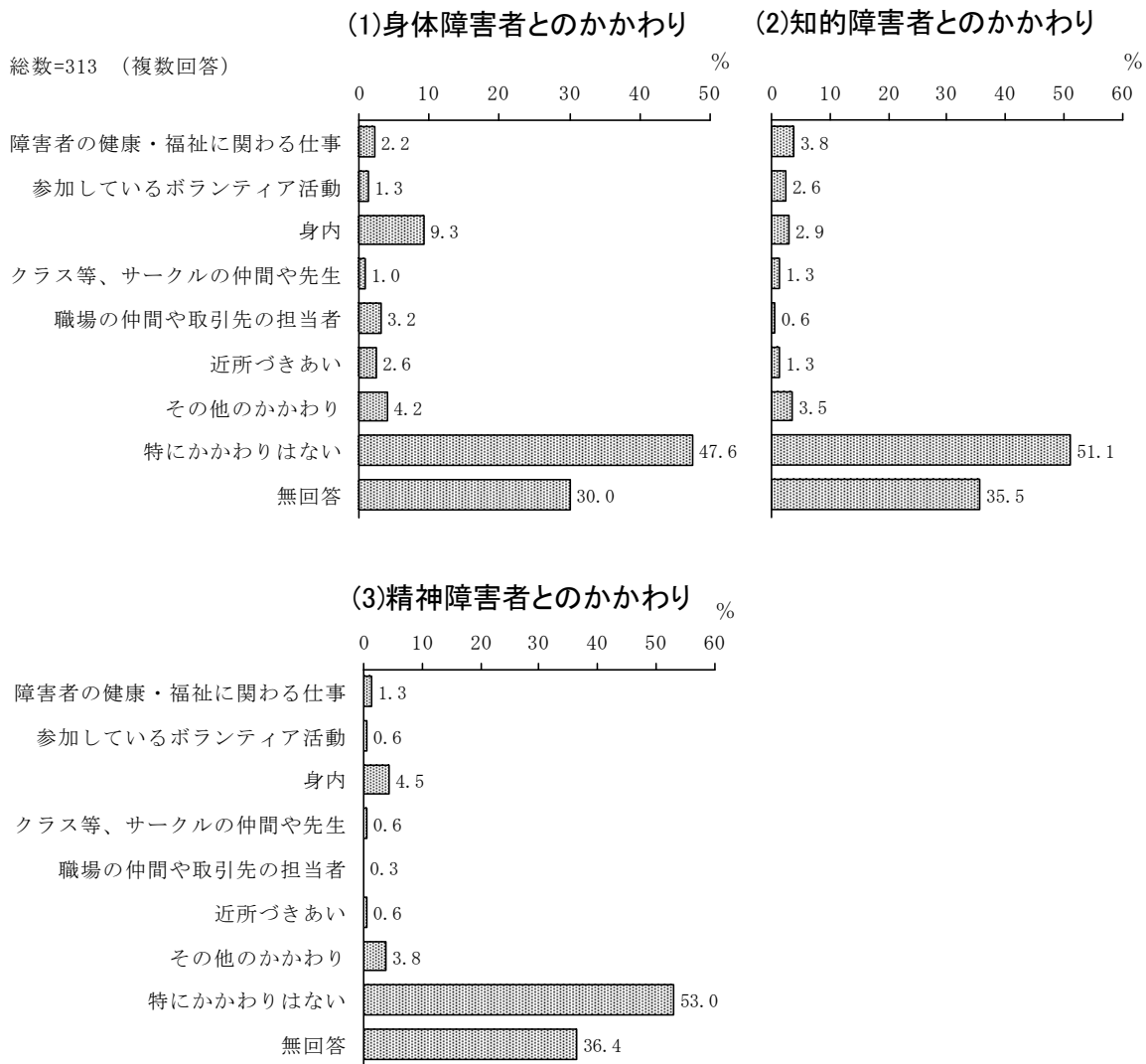
問 10. 知っている言葉 × 性別・年齢別・支援活動別

	全体	ノーマライゼーション	バリアフリー	ユニバーサルデザイン	障害者基本法	障害者自立支援法	支援費制度	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	市川市身体障害者地域生活支援センター	市川市子ども発達センター	市川市南八幡メンタルサポートセンター	市川市障害者就労支援センター	校・市立養護学校	福祉作業所	知っているものはないもの	無回答	
	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	
全体 (0)	313 100.0	80 25.6	287 91.7	134 42.8	44 14.1	130 41.5	43 13.7	250 79.9	40 12.8	52 16.6	57 18.2	43 13.7	19 6.1	27 8.6	170 54.3	146 46.6	5 1.6	3 1.0	
性別	男性 (1)	128 100.0	34 26.6	116 90.6	47 36.7	21 16.4	57 44.5	22 17.2	99 77.3	11 8.6	22 17.2	26 20.3	12 9.4	7 5.5	15 11.7	70 54.7	56 43.8	2 1.6	2 1.6
	女性 (2)	178 100.0	44 24.7	165 92.7	85 47.8	22 12.4	70 39.3	20 11.2	147 82.6	28 15.7	29 16.3	31 17.4	31 17.4	12 6.7	12 6.7	98 55.1	90 50.6	2 1.1	1 0.6
	無回答 (3)	7 100.0	2 28.6	6 85.7	2 28.6	1 14.3	3 42.9	1 14.3	4 57.1	1 14.3	1 14.3	-	-	-	-	2 28.6	-	1 14.3	-
年齢	16～29歳 (1)	49 100.0	19 38.8	49 100.0	31 63.3	8 16.3	20 40.8	5 10.2	36 72.5	4 8.2	8 16.3	7 14.3	3 6.1	-	2 4.1	21 42.9	16 32.7	-	-
	30～39歳 (2)	82 100.0	17 20.7	76 92.7	38 46.3	10 12.2	30 36.6	6 7.3	69 84.1	11 13.4	11 13.4	9 11.0	17 20.7	6 7.3	8 9.8	44 53.7	25 30.5	1 1.2	1 1.2
	40～49歳 (3)	49 100.0	11 22.4	46 93.9	28 57.1	6 12.2	25 51.0	11 22.4	45 91.8	8 16.3	9 18.4	16 32.7	12 24.5	4 8.2	5 10.2	30 61.2	31 63.3	1 2.0	-
	50～59歳 (4)	54 100.0	16 29.6	53 98.1	15 27.8	8 14.8	26 48.1	8 14.8	43 79.6	9 16.7	11 20.4	13 24.1	6 11.1	7 13.0	8 14.8	31 57.4	37 68.5	1 1.9	-
	60～64歳 (5)	19 100.0	4 21.1	16 84.2	5 26.3	3 15.8	8 42.1	3 15.8	15 78.9	3 15.8	3 15.8	1 5.3	1 5.3	1 5.3	1 5.3	11 57.9	7 36.8	1 5.3	-
	65歳以上 (6)	58 100.0	13 22.4	45 77.6	17 29.3	9 15.5	21 36.2	10 17.2	42 72.4	5 8.6	10 17.2	11 19.0	4 6.9	1 1.7	3 5.2	32 55.2	29 50.0	1 1.7	2 3.4
	無回答 (7)	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-	-
職業	常勤就労 (1)	115 100.0	33 28.7	111 96.5	59 51.3	18 15.7	51 44.3	18 15.7	98 85.2	20 17.4	16 13.9	21 18.3	18 15.7	9 7.8	15 13.0	63 54.8	49 42.6	1 0.9	-
	非常勤就労 (2)	53 100.0	7 13.2	48 90.6	19 35.8	5 9.4	27 50.9	6 11.3	43 81.1	6 11.3	11 20.8	10 18.9	9 17.0	5 9.4	4 7.5	32 60.4	30 56.6	-	1 1.9
	自営業 (3)	25 100.0	3 12.0	23 92.0	8 32.0	6 24.0	11 44.0	6 24.0	21 84.0	3 12.0	6 24.0	7 28.0	4 16.0	1 4.0	2 8.0	16 64.0	12 48.0	1 4.0	1 4.0
	家事専従 (4)	57 100.0	14 24.6	53 93.0	27 47.4	8 14.0	19 33.3	8 14.0	47 82.5	9 15.8	10 17.5	10 17.5	10 17.5	3 5.3	2 3.5	26 45.6	28 49.1	2 3.5	-
	生徒・学生 (5)	15 100.0	9 60.0	15 100.0	14 93.3	3 20.0	5 33.3	1 6.7	8 53.3	-	2 13.3	-	-	-	-	6 40.0	6 40.0	-	-
	無職 (6)	45 100.0	14 31.1	34 75.6	7 15.6	4 8.9	16 35.6	4 8.9	31 68.9	1 2.2	6 13.3	8 17.8	2 4.4	1 2.2	3 6.7	25 55.6	20 44.4	1 2.2	1 2.2
	その他 (7)	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	1 100.0	1 100.0	-	-
	無回答 (8)	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-
支援活動	障害者支援活動参加あり (1)	86 100.0	31 36.0	84 97.7	44 51.2	18 20.9	44 51.2	20 23.3	74 86.0	22 25.6	26 30.2	26 30.2	21 24.4	12 14.0	15 17.4	62 72.1	61 70.9	-	-
	障害者支援活動参加なし (2)	204 100.0	47 23.0	184 90.2	85 41.7	25 12.3	74 36.3	19 9.3	158 77.5	17 8.3	20 9.8	24 11.8	20 9.8	6 2.9	8 3.9	96 47.1	73 35.8	5 2.5	2 1.0
	無回答 (3)	23 100.0	2 8.7	19 82.6	5 21.7	1 4.3	12 52.2	4 17.4	18 78.3	1 4.3	6 26.1	7 30.4	2 8.7	1 4.3	4 17.4	12 52.2	12 52.2	-	1 4.3

(2) 障害のある方とのかかわり

- 障害のある人とのかかわりは、全体でみると、3 障害を通じて「特にかかわりはない」とする割合が半数程度と高くなっている。
- 身体障害、精神障害との関わりでは、「身内」を挙げる割合が、他の選択肢よりもやや高くなっている。

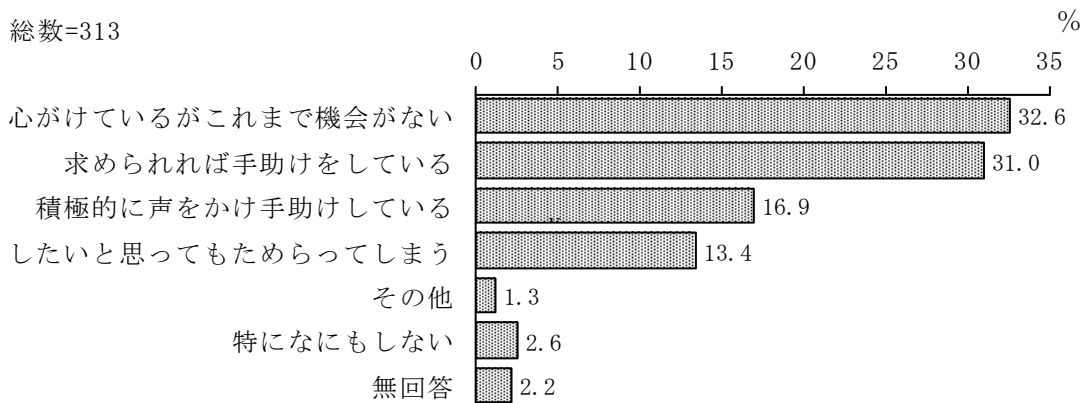
問 11. 障害のある方とのかかわり



(3) 困っている障害者をみかけた時の手助け

- 全体では、「心がけているがこれまで機会がない」(約 33%)、「求められれば手助けをしている」(約 31%)の割合が高く、「積極的に声をかけ手助けしている」は約 17%、6人にひとり程度となっている。
- 属性別に見ると、「積極的に声をかけ手助けしている」割合が高いのは60～64歳(約 26%)、40歳代(約 25%)であり、「したいと思ってもためらってしまう」割合は、30歳代で高い。
- 障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層で比較すると、「ある」層のほうが「積極的に声をかけ手助けしている」、「求められれば手助けをしている」割合が高く、「したいと思ってもためらってしまう」割合が低くなっている。

問 12. 困っている障害者をみかけた時の手助け



問 12. 困っている障害者をみかけた時の手助け × 年齢別・支援活動別

	全体 (0)	積極的に声をかけ 手助けしている	求められれば手助 けをしてい	たしめたいと思つても めらってしまう	こ れ が 心 が け て い る が 機 会 が な い	そ の 他	特 に な い も	無 回 答	
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
全体 (0)	313 100.0	53 16.9	97 31.0	42 13.4	102 32.6	4 1.3	8 2.6	7 2.2	
年 齢	16～29歳 (1)	49 100.0	5 10.2	17 34.7	7 14.3	15 30.6	2 4.1	2 4.1	1 2.0
	30～39歳 (2)	82 100.0	15 18.3	26 31.7	16 19.5	22 26.8	-	-	3 3.7
	40～49歳 (3)	49 100.0	12 24.5	17 34.7	8 16.3	10 20.4	-	1 2.0	1 2.0
	50～59歳 (4)	54 100.0	8 14.8	22 40.7	7 13.0	15 27.8	1 1.9	-	1 1.9
	60～64歳 (5)	19 100.0	5 26.3	4 21.1	1 5.3	8 42.1	-	1 5.3	-
	65歳以上 (6)	58 100.0	8 13.8	10 17.2	3 5.2	32 55.2	1 1.7	3 5.2	1 1.7
	無回答 (7)	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-
支 援 活 動	障害者支援活動参加あり (1)	86 100.0	17 19.8	39 45.3	6 7.0	21 24.4	1 1.2	1 1.2	1 1.2
	障害者支援活動参加なし (2)	204 100.0	31 15.2	54 26.5	34 16.7	73 35.8	3 1.5	6 2.9	3 1.5
	無回答 (3)	23 100.0	5 21.7	4 17.4	2 8.7	8 34.8	-	1 4.3	3 13.0

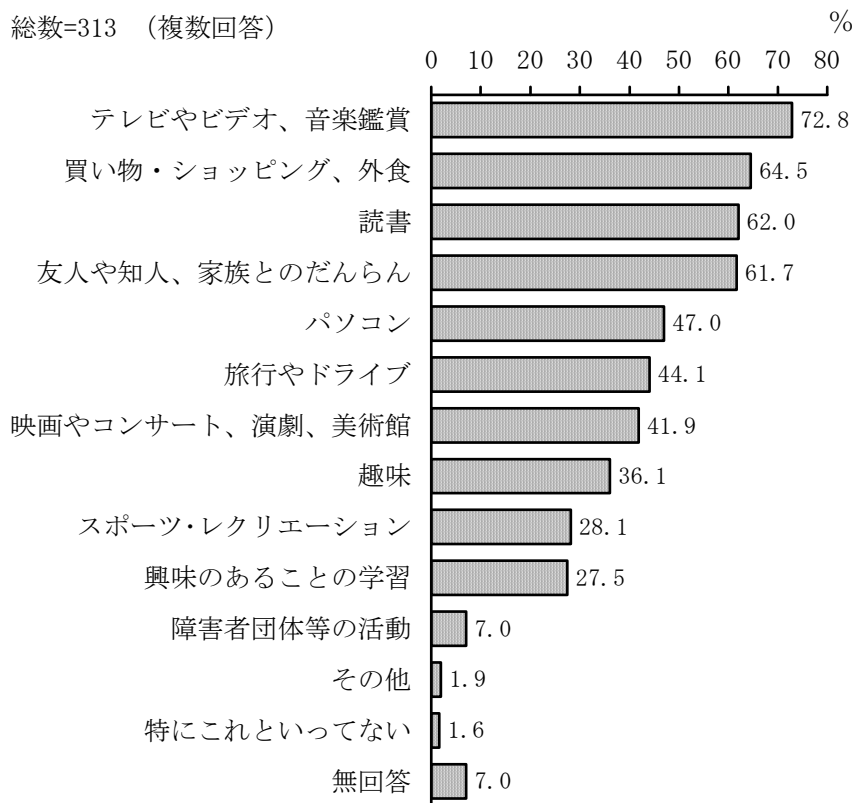
4 余暇活動や障害者を支援する活動について

(1) 自由時間の過ごし方

① 現在やっていること

- 自由時間の過ごし方として、現在やっていることは、全体では「テレビやビデオ、音楽鑑賞」が約 73% で最も高く、ついで「買い物・ショッピング、外食」「読書」「友人や知人、家族とのだんらん」などが 60%を超えて高くなっている。
- 手帳非所持者と手帳所持者とのあいだに、活動項目の順位に大きな違いは見られないが、活動の参加率には開きが見られ、とくに、パソコン、家族などとのだんらん、買い物・ショッピング、演劇・コンサートなどで差が大きい。

問 13. 自由時間の過ごし方①現在やっていること



問 13. 自由時間の過ごし方①現在やっていること—手帳所持者との比較—

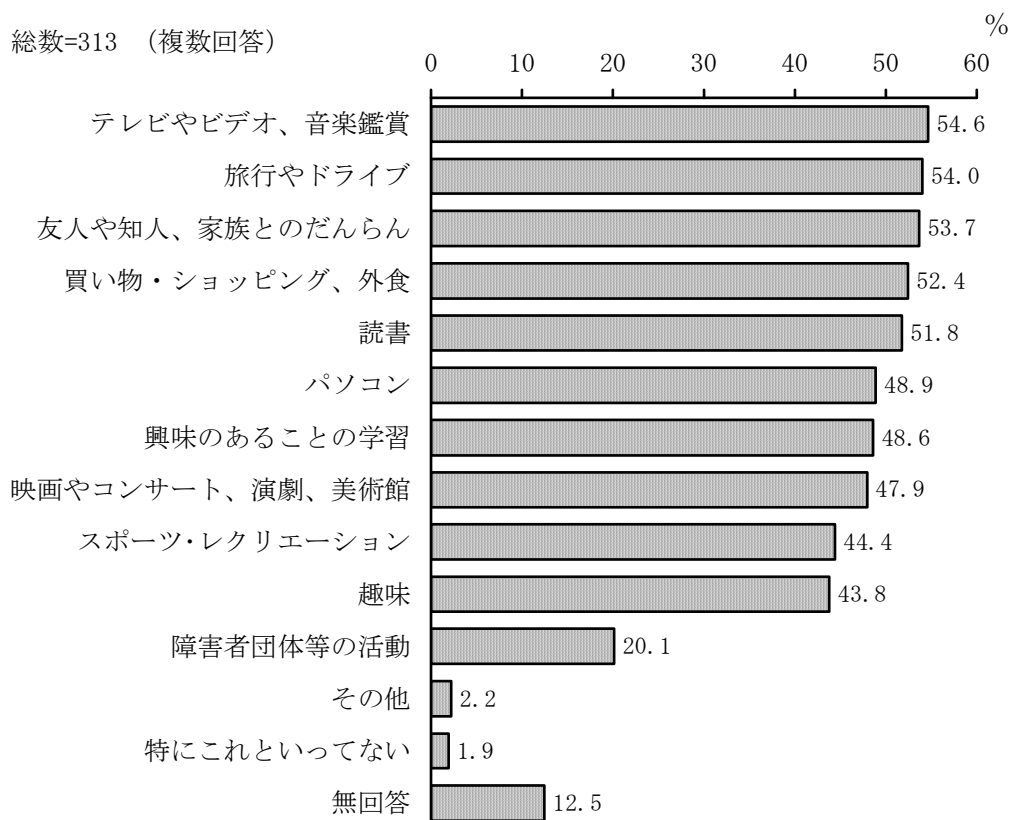
	全体	テレビやビデオ、音楽鑑賞	買い物・ショッピング、外食	読書	友人や知人、家族とのだんらん	旅行やドライブ	趣味	パソコン	映画やコンサート、演劇、美術館	スポーツ・レクリエーション	興味のあることの学習	障害者団体等の活動	その他	特にこれといってない	無回答
	(0)	(1)	(8)	(2)	(5)	(11)	(4)	(3)	(10)	(6)	(9)	(7)	(12)	(13)	(14)
手帳所持者 全体	(0) 1608	984	597	574	520	330	285	280	274	140	136	89	55	88	350
	100.0	61.2	37.1	35.7	32.3	20.5	17.7	17.4	17.0	8.7	8.5	5.5	3.4	5.5	21.8
手帳非所持者 全体	(0) 313	228	202	194	193	138	113	147	131	88	86	22	6	5	22
	100.0	72.8	64.5	62.0	61.7	44.1	36.1	47.0	41.9	28.1	27.5	7.0	1.9	1.6	7.0

② 今後も続けたい、新しくやりたいこと

○自由時間の過ごし方として、今後も続けたい、新しくやりたいこととしては、全体では「テレビやビデオ、音楽鑑賞」、「旅行やドライブ」、「友人や知人、家族とのだんらん」、「買い物・ショッピング、外食」「読書」などが50%を超えて高くなっている。「旅行やドライブ」については、現在の参加率よりも、今後の参加希望率が高く、新しくやりたいこととして強く望まれている。

○現状の参加率と同様、手帳非所持者と手帳所持者とのあいだに、今後、希望する活動項目の順位に大きな違いは見られないが、希望率には20～30ポイントの差が見られる。

問 13. 自由時間の過ごし方②今後も続けたい、新しくやりたいこと



問 13. 自由時間の過ごし方②今後も続けたい、新しくやりたいこと—手帳所持者との比較—

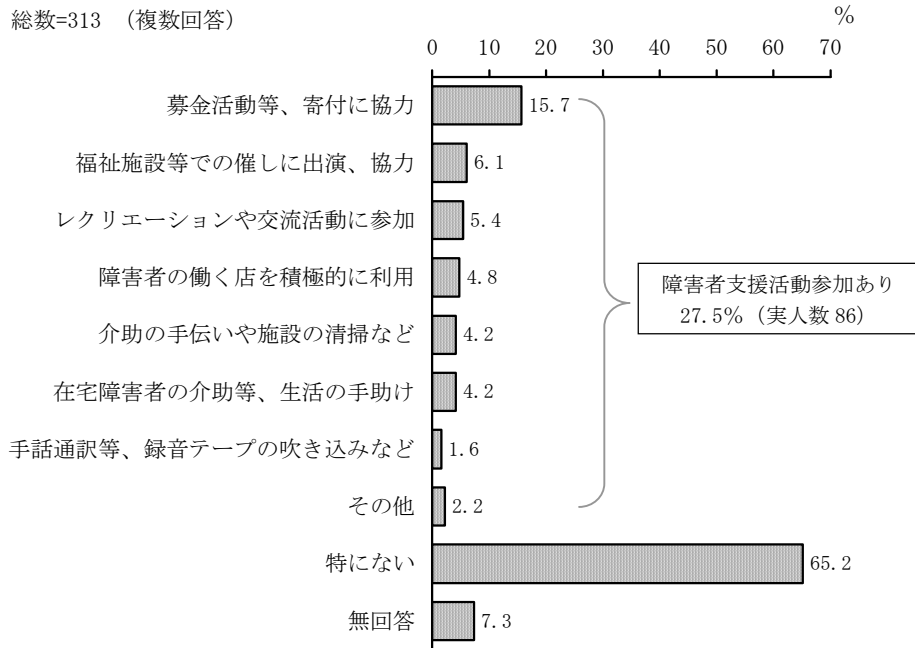
	全体	テレビやビデオ、音楽鑑賞	買い物・ショッピング、外食	旅行やドライブ	友人や知人、家族とのだんらん	読書	映画やコンサート、演劇、美術館	趣味	パソコン	興味のあることの学習	スポーツ・レクリエーション	障害者団体等の活動	その他	特にこれとってない	無回答
手帳所持者 全体 (0)	1608	549	455	430	414	360	309	292	279	232	222	134	41	59	702
	100.0	34.1	28.3	26.7	25.7	22.4	19.2	18.2	17.4	14.4	13.8	8.3	2.5	3.7	43.7
手帳非所持者 全体 (0)	313	171	164	169	168	162	150	137	153	152	139	63	7	6	39
	100.0	54.6	52.4	54.0	53.7	51.8	47.9	43.8	48.9	48.6	44.4	20.1	2.2	1.9	12.5

(2) 障害者支援活動で参加したことのあるもの

① 参加経験

- 全体では、参加した活動が「特にない」とする割合が **65%**と半数以上を占める。
- 参加したことのある活動としては、「募金活動等、寄付に協力」が最も多く約 **16%**、ついで、「福祉施設等での催しに出演、協力」約 **6%**、「レクリエーションや交流活動に参加」約 **5%**が続いている。

問 14. 障害者支援活動①参加経験



○活動への参加者が少ないため、一定の傾向を指摘するのは難しいが、性別では多少の数値のばらつきがあるものの、大きな傾向の違いは見られない。年代別には特徴が見受けられ、「特にない」については、30歳代と60～64歳の層で全体より10ポイント以上高く、反対に、40歳代では全般に参加率が高くなっている。

○また、20歳代までの若い層では「福祉施設等での催しに出演、協力」、「介助の手伝いや施設の清掃」など具体的な行動による支援の割合が高く、「募金活動等、寄付に協力」、「障害者の働く店を積極的に利用」など経済的な支援活動は50歳代で高い傾向が見られる。

問 14. 障害者支援活動①参加経験 × 性別・年齢別

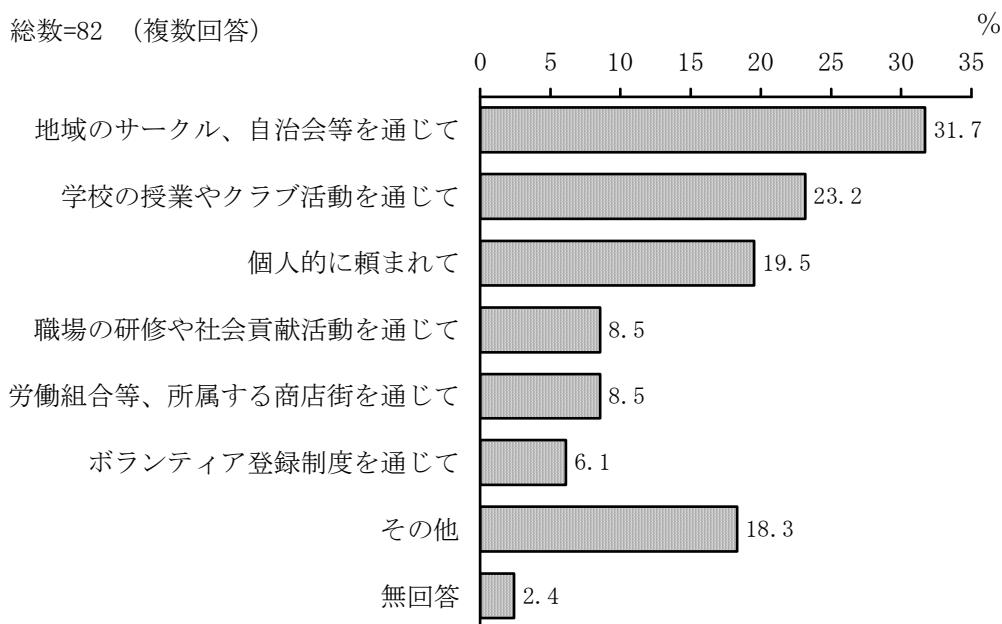
		全体 (0)	福祉施設等での催しに出演、協力 (1)	やレク交流活動に参加 (2)	介助の手伝いや施設 (3)	在宅障害者の手助け (4)	テ手話通訳等、録音 (5)	障害者の働く店を (6)	募金活動等、寄付 (7)	その他 (8)	特にない (9)
全体 (0)		313 100.0	19 6.1	17 5.4	13 4.2	13 4.2	5 1.6	15 4.8	49 15.7	7 2.2	204 65.2
性別	男性 (1)	128 100.0	6 4.7	8 6.3	3 2.3	5 3.9	-	4 3.1	16 12.5	2 1.6	87 68.0
	女性 (2)	178 100.0	13 7.3	9 5.1	10 5.6	8 4.5	5 2.8	11 6.2	33 18.5	5 2.8	111 62.4
	無回答 (3)	7 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	6 85.7
年齢	16～29歳 (1)	49 100.0	5 10.2	4 8.2	4 8.2	1 2.0	3 6.1	1 2.0	9 18.4	1 2.0	33 67.3
	30～39歳 (2)	82 100.0	1 1.2	4 4.9	1 1.2	1 1.2	-	3 3.7	8 9.8	2 2.4	62 75.6
	40～49歳 (3)	49 100.0	6 12.2	6 12.2	4 8.2	3 6.1	-	3 6.1	10 20.4	-	27 55.1
	50～59歳 (4)	54 100.0	3 5.6	3 5.6	3 5.6	4 7.4	2 3.7	5 9.3	14 25.9	1 1.9	30 55.6
	60～64歳 (5)	19 100.0	-	-	-	-	-	1 5.3	-	2 10.5	15 78.9
	65歳以上 (6)	58 100.0	4 6.9	-	1 1.7	4 6.9	-	2 3.4	7 12.1	1 1.7	36 62.1
	無回答 (7)	2 100.0	-	-	-	-	-	-	1 50.0	-	1 50.0

② 参加形式

○障害者を支援する活動には、「地域のサークル、自治会等を通じて」参加したとする割合が約32%で最も多い。次いで、「学校の授業やクラブ活動を通じて」参加した割合が約23%となっている。一方、ボランティア登録制度を通じた参加は、約6%で少数である。

○年代別では参加者数が少ないため、一定の傾向を指摘するのは難しいが、29歳までの若い層では、「学校の授業やクラブ活動を通じて」が半数を占め、50歳代では「地域のサークル、自治会等を通じて」とする割合が半数を超えている。

付問 14-1. 障害者支援活動②参加形式



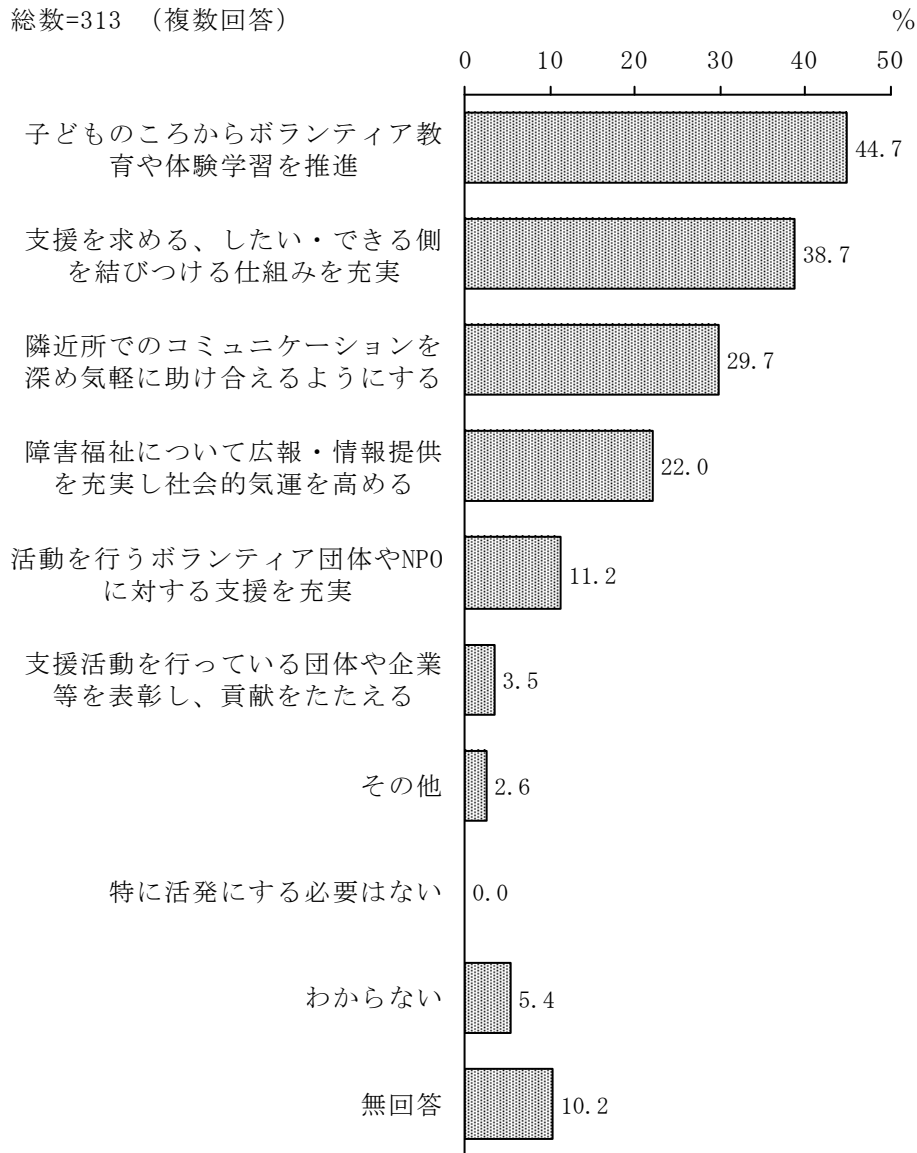
付問 14-1. 障害者支援活動②参加形式 × 性別・年齢別

	全体 (0)	学校の授業やクラブ活動を通じて	職場の研修や社会貢献活動を通じて	労働組合等、所属する商店街を通じて	地域のサークル、自治会等を通じて	ボランティア登録制度を通じて	個人的に頼まれて	その他	無回答
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
全体 (0)	82	19	7	7	26	5	16	15	2
	100.0	23.2	8.5	8.5	31.7	6.1	19.5	18.3	2.4
性別	男性 (1)	30	5	2	4	11	2	7	3
		100.0	16.7	6.7	13.3	36.7	6.7	23.3	10.0
	女性 (2)	52	14	5	3	15	3	9	12
		100.0	26.9	9.6	5.8	28.8	5.8	17.3	23.1
年齢	16~29歳 (1)	14	7	1	3	-	-	3	2
		100.0	50.0	7.1	21.4	-	-	21.4	14.3
	30~39歳 (2)	15	4	1	1	2	2	1	4
		100.0	26.7	6.7	6.7	13.3	13.3	6.7	26.7
	40~49歳 (3)	19	5	3	2	4	2	3	4
		100.0	26.3	15.8	10.5	21.1	10.5	15.8	21.1
50~59歳 (4)	19	3	2	1	10	-	4	4	
	100.0	15.8	10.5	5.3	52.6	-	21.1	21.1	
60~64歳 (5)	1	-	-	-	1	-	-	-	-
	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-
65歳以上 (6)	13	-	-	-	8	1	5	1	-
	100.0	-	-	-	61.5	7.7	38.5	7.7	-

(3) 障害者支援活動を活発にするために必要なこと

○障害者を支援する活動を活発にするために必要なこととして、全体では、「子どもころからボランティア教育や体験学習を推進」を挙げる割合が約 45% と最も高くなっている。ついで、「支援を求める側と、支援をしたい・できる側を結びつける仕組みを充実」が約 39%、「隣近所でのコミュニケーションを深め、気軽に助け合えるようにする」が約 30%と続いている。

問 15. 障害者支援活動を活発にするために必要なこと



- 男女別では大きな回答傾向の違いはみられない。年代別では、40歳代と60～64歳の層で、支援を求める側と、できる側を結びつける仕組みの充実や、広報・情報提供による社会気運の醸成などを挙げる割合が高く、65歳以上の層で「隣近所でのコミュニケーションを深め、気軽に助け合えるようにする」の割合が高いなどの特徴が見られる。
- 障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層で比較すると、「ある」層では、「子どものころからボランティア教育や体験学習を推進」、「活動を行うボランティア団体やNPOに対する支援を充実」を挙げる割合が「ない」層を10ポイント程度上回っている。

問 15. 障害者支援活動を活発にするために必要なこと × 年齢別・支援活動別

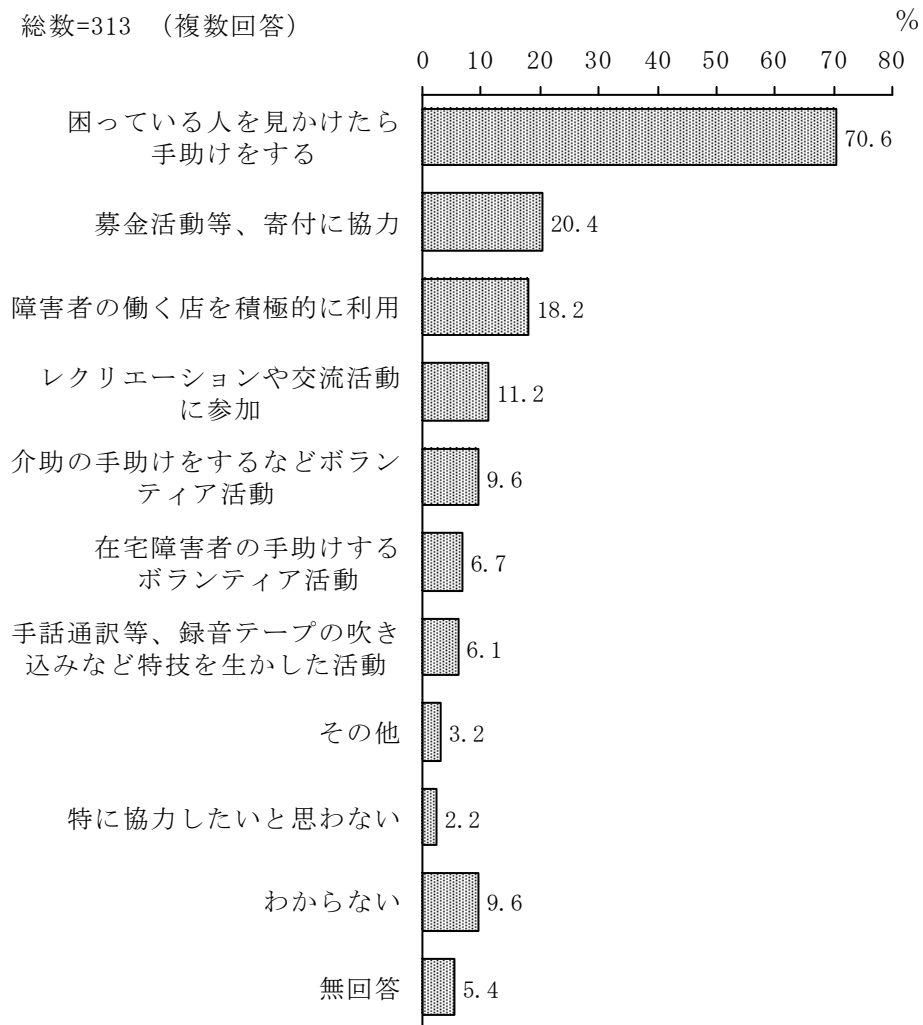
	全体	支援を求め 結びつける 仕組みを 充実	子どもの ころから ボラン ティア 教育 や 体 験 学 習 を 推 進	支 援 活 動 を 行 っ て い る 団 体 や 企 業 を 表 彰 し 、 貢 献 を た た え る	活 動 を 行 う ボ ラ ン テ ィ ア 団 体 や N P O に 対 す る 支 援 を 充 実	障 害 福 祉 に つ い て 広 報 ・ 情 報 提 供 を 充 実 し 社 会 的 気 運 を 高 め る	隣 近 所 で の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 深 め 気 軽 に 助 け 合 え る よ う に す る	そ の 他	特 に 活 発 に す る 必 要 は な い	わ か ら な い
	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
全体 (0)	313 100.0	121 38.7	140 44.7	11 3.5	35 11.2	69 22.0	93 29.7	8 2.6	-	17 5.4
年齢	16～29歳 (1)	49 100.0	17 34.7	23 46.9	2 4.1	5 10.2	10 20.4	16 32.7	2 4.1	3 6.1
	30～39歳 (2)	82 100.0	36 43.9	37 45.1	5 6.1	9 11.0	18 22.0	15 18.3	3 3.7	4 4.9
	40～49歳 (3)	49 100.0	24 49.0	23 46.9	2 4.1	7 14.3	13 26.5	13 26.5	1 2.0	2 4.1
	50～59歳 (4)	54 100.0	23 42.6	21 38.9	2 3.7	9 16.7	11 20.4	18 33.3	1 1.9	2 3.7
	60～64歳 (5)	19 100.0	9 47.4	7 36.8	-	2 10.5	6 31.6	6 31.6	-	1 5.3
	65歳以上 (6)	58 100.0	12 20.7	28 48.3	-	3 5.2	11 19.0	24 41.4	1 1.7	5 8.6
	無回答 (7)	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-	-
支援活動	障害者支援活動参加あり (1)	86 100.0	33 38.4	46 53.5	5 5.8	15 17.4	18 20.9	19 22.1	4 4.7	1 1.2
	障害者支援活動参加なし (2)	204 100.0	84 41.2	86 42.2	6 2.9	18 8.8	45 22.1	67 32.8	4 2.0	15 7.4
	無回答 (3)	23 100.0	4 17.4	8 34.8	-	2 8.7	6 26.1	7 30.4	-	1 4.3

(4) 今後の障害者支援活動への協力、活動への参加意向

○今後、どのような形で障害者を支援する活動に協力したいかについては、全体の7割が「困っている人を見かけたら手助けする」を挙げている。ついで、「募金活動等、寄付に協力」や「障害者の働く店を積極的に利用」などが20%前後で続いている。

問 16. 今後の障害者支援活動への協力、活動への参加意向

総数=313 (複数回答)



- 属性別では、男女別では大きな回答傾向の違いは見られない。年代別では、介助の手助けや在宅障害者の手助けなどのボランティア活動への参加意欲は、29歳までの若い年代層で高く、レクリエーションや交流活動への参加は、40歳代で高い。
- 障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層で比較すると、「ある」層は全般的に今後の参加意向が高く、支援活動への参加を高めるためには、実際に活動を体験することが重要であることを示唆している。

問 16. 今後の障害者支援活動への協力、活動への参加意向 × 年齢別・支援活動別

		全体	介助の手助けをするなど ボランティア活動	在宅障害者の手助けする ボランティア活動	レクリエーションや交流活動に 参加	手話通訳等、録音テープの吹き 込みなど特技を生かした活動	障害者の働く店を積極的に利用	募金活動等、寄付に協力	困っている人を見かけたら 手助けをする	その他	特に協力したいと思わない	わからない	無回答
		(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
全体 (0)		313 100.0	30 9.6	21 6.7	35 11.2	19 6.1	57 18.2	64 20.4	221 70.6	10 3.2	7 2.2	30 9.6	17 5.4
年齢	16～29歳 (1)	49 100.0	9 18.4	8 16.3	6 12.2	2 4.1	10 20.4	19 38.8	30 61.2	-	3 6.1	5 10.2	2 4.1
	30～39歳 (2)	82 100.0	8 9.8	1 1.2	10 12.2	8 9.8	13 15.9	15 18.3	57 69.5	4 4.9	2 2.4	7 8.5	3 3.7
	40～49歳 (3)	49 100.0	7 14.3	3 6.1	9 18.4	5 10.2	10 20.4	13 26.5	39 79.6	2 4.1	-	5 10.2	1 2.0
	50～59歳 (4)	54 100.0	2 3.7	7 13.0	3 5.6	2 3.7	13 24.1	11 20.4	44 81.5	-	2 3.7	2 3.7	3 5.6
	60～64歳 (5)	19 100.0	2 10.5	1 5.3	2 10.5	-	5 26.3	1 5.3	12 63.2	1 5.3	-	4 21.1	2 10.5
	65歳以上 (6)	58 100.0	2 3.4	1 1.7	5 8.6	2 3.4	6 10.3	5 8.6	38 65.5	2 3.4	-	7 12.1	6 10.3
	無回答 (7)	2 100.0	-	-	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-
支援活動	障害者支援活動参加あり (1)	86 100.0	15 17.4	14 16.3	20 23.3	7 8.1	20 23.3	34 39.5	69 80.2	1 1.2	1 1.2	2 2.3	2 2.3
	障害者支援活動参加なし (2)	204 100.0	13 6.4	7 3.4	12 5.9	10 4.9	33 16.2	27 13.2	138 67.6	9 4.4	6 2.9	27 13.2	9 4.4
	無回答 (3)	23 100.0	2 8.7	-	3 13.0	2 8.7	4 17.4	3 13.0	14 60.9	-	-	1 4.3	6 26.1

5 障害者福祉の情報について

(1) 障害のある方の問題や障害者福祉についての関心

① 関心の程度

○障害のある人の問題や障害者福祉について、全体では「ある程度関心がある」が約49%と最も高い割合を占めており、「非常に関心がある」と合わせると約59%の人が関心を持つとしている

○「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合は、男女とも全体とほぼ同程度である。年代別では、50歳代（合計値約67%）で全体よりもやや高く、20歳代以下の層（合計値約53%）でやや低い。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層では、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合が約84%と際立って高い。

問17. 障害のある方の問題や障害者福祉についての関心①関心の程度

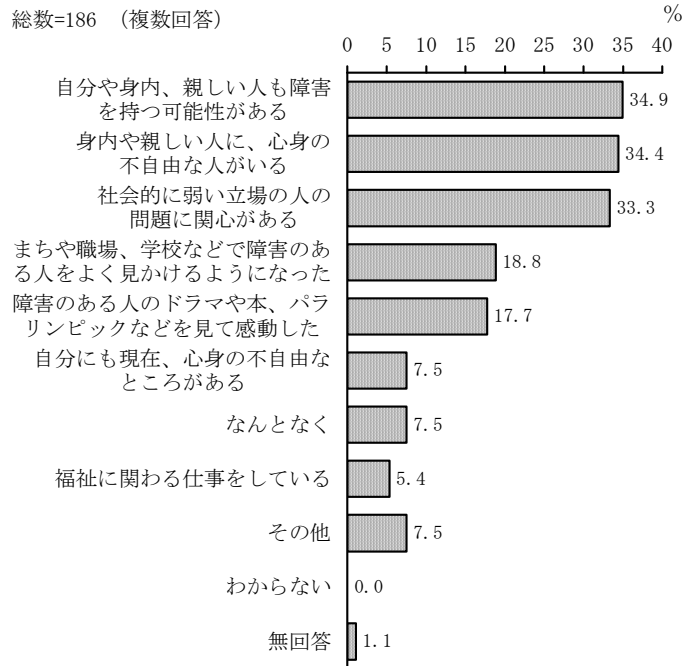
×性別・年齢別・支援活動別

		全体	非常に 関心がある	関心 ある程度 がある	あまり 関心がない	全く 関心がない	どちらとも いえない	わからない	無回答	関心「非常に 関心がある」 の計
		(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
全体 (0)		313 100.0	33 10.5	153 48.9	51 16.3	2 0.6	39 12.5	14 4.5	21 6.7	59.4
性別	男性 (1)	128 100.0	12 9.4	60 46.9	23 18.0	1 0.8	17 13.3	5 3.9	10 7.8	56.3
	女性 (2)	178 100.0	21 11.8	90 50.6	26 14.6	1 0.6	22 12.4	9 5.1	9 5.1	62.4
	無回答 (3)	7 100.0	-	3 42.9	2 28.6	-	-	-	2 28.6	42.9
年齢	16～29歳 (1)	49 100.0	6 12.2	20 40.8	11 22.4	2 4.1	7 14.3	1 2.0	2 4.1	53.1
	30～39歳 (2)	82 100.0	6 7.3	41 50.0	13 15.9	-	13 15.9	4 4.9	5 6.1	57.3
	40～49歳 (3)	49 100.0	7 14.3	23 46.9	12 24.5	-	6 12.2	1 2.0	-	61.2
	50～59歳 (4)	54 100.0	5 9.3	31 57.4	7 13.0	-	6 11.1	2 3.7	3 5.6	66.7
	60～64歳 (5)	19 100.0	1 5.3	11 57.9	-	-	2 10.5	1 5.3	4 21.1	63.2
	65歳以上 (6)	58 100.0	8 13.8	26 44.8	7 12.1	-	5 8.6	5 8.6	7 12.1	58.6
	無回答 (7)	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	50.0
支援活動	障害者支援活動参加あり (1)	86 100.0	22 25.6	50 58.1	8 9.3	-	5 5.8	-	1 1.2	83.7
	障害者支援活動参加なし (2)	204 100.0	10 4.9	93 45.6	39 19.1	2 1.0	33 16.2	13 6.4	14 6.9	50.5
	無回答 (3)	23 100.0	1 4.3	10 43.5	4 17.4	-	1 4.3	1 4.3	6 26.1	47.8

② 関心を持っている理由やきっかけ

○前問で「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」とした回答者が、障害者福祉に関心を持つようになった理由としては、「自分や身内、親しい人も障害を持つ可能性がある」、「身内や親しい人に、心身の不自由な人がいる」が34%程度となっており、身近な問題、共感する問題としてとらえる人が多い。また、「社会的に弱い立場の人の問題に関心がある」（約33%）といった社会意識の強い人も同程度の割合となっている。

付問 17-1. 関心を持っている理由やきっかけ

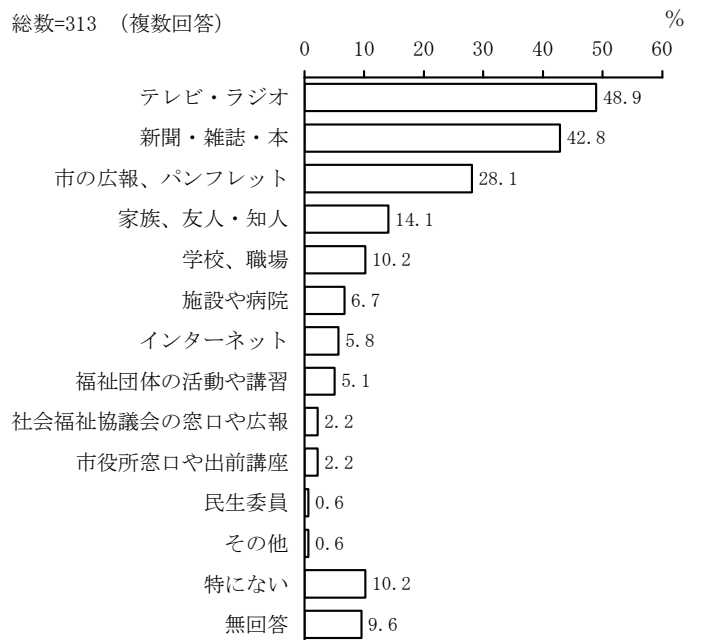


(2) 障害者福祉についての情報入手先

○障害者福祉の情報の入手先は、「テレビ・ラジオ」（約49%）、「新聞・雑誌・本」（約43%）を挙げる割合が高く、マスコミが主体となっている。

○これらに次いで、市の広報、パンフレットが28%で続いている。一方、社会福祉協議会の窓口や広報、市役所窓口や出前講座など、市の広報以外の公的機関の広報活動を挙げた割合は少数となっている。

問 18. 障害者福祉についての情報入手先

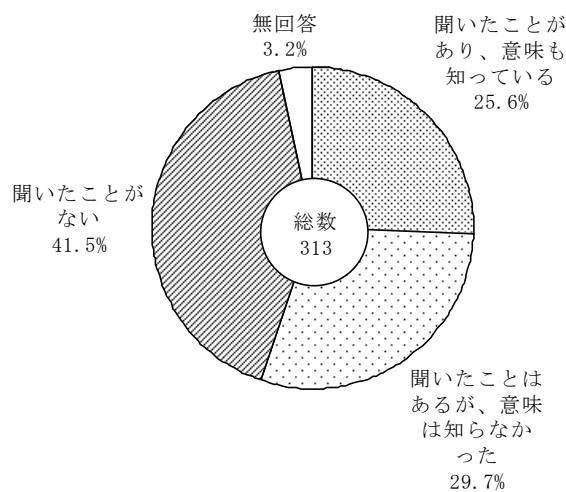


6 これからの障害福祉について

(1) 「ノーマライゼーション」という言葉について

- ノーマライゼーションという言葉、その意味とともに知っているかという問に対しては、約 42%が「聞いたことがない」としており、「聞いたことがあり、意味も知っている」(約 26%)を約 16 ポイント上回っている。
- 性別では回答傾向に大きな差はなく、年代別では、20 歳代までの層で「聞いたことがあり、意味も知っている」が約 39%で、全体を 10 ポイント以上上回っている。
- 障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層においても、「聞いたことがあり、意味も知っている」の割合が約 37%と高い。

問 19. 「ノーマライゼーション」という言葉について



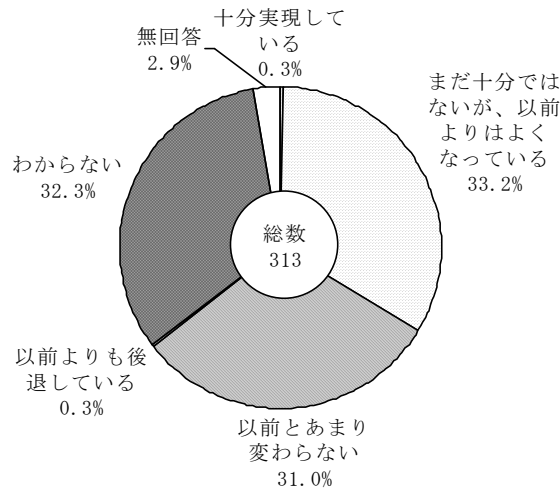
問 19. 「ノーマライゼーション」という言葉について × 年齢別・支援活動別

		全体	り、聞いたことがある	が、聞いたことはある	聞いたことがない	無回答
		(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
全体 (0)		313 100.0	80 25.6	93 29.7	130 41.5	10 3.2
年齢	16～29歳 (1)	49 100.0	19 38.8	16 32.7	13 26.5	1 2.0
	30～39歳 (2)	82 100.0	15 18.3	30 36.6	34 41.5	3 3.7
	40～49歳 (3)	49 100.0	12 24.5	10 20.4	27 55.1	-
	50～59歳 (4)	54 100.0	14 25.9	14 25.9	24 44.4	2 3.7
	60～64歳 (5)	19 100.0	6 31.6	5 26.3	7 36.8	1 5.3
	65歳以上 (6)	58 100.0	14 24.1	18 31.0	23 39.7	3 5.2
支援活動	障害者支援活動参加あり (1)	86 100.0	32 37.2	24 27.9	30 34.9	-
	障害者支援活動参加なし (2)	204 100.0	46 22.5	61 29.9	89 43.6	8 3.9

(2) 「ノーマライゼーション」の実現状況

○5年前と比較して、「ノーマライゼーション」が実現されているかどうかについては、「まだ十分ではないが、以前よりはよくなっている」、「以前とあまり変わらない」、「わからない」が、ほぼ同程度の割合を占めている。「十分実現している」「以前より後退している」はともにごく少数である。

問 20. 「ノーマライゼーション」の実現状況



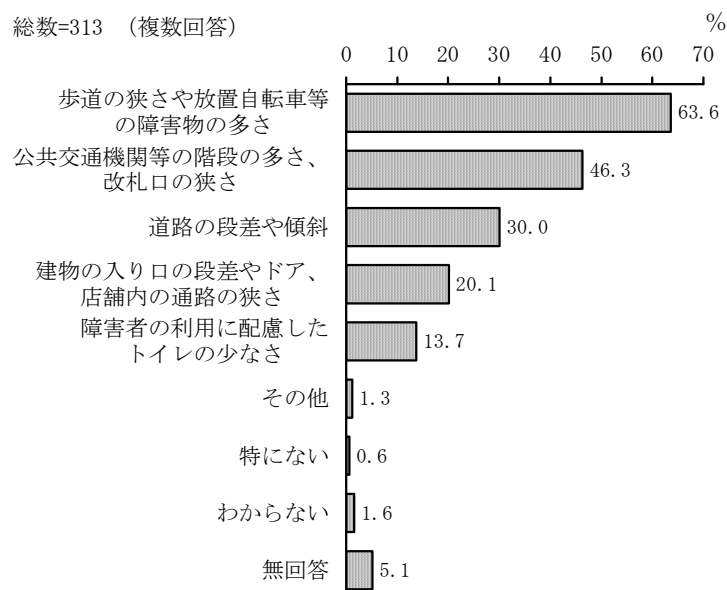
(3) バリアフリー面での大きな課題

ノーマライゼーションを実現するために必要となる、バリアフリー面での課題をたずねた。

① 物理的な障壁

○建物、設備など物理的な障壁としては、全体では「歩道の狭さや放置自転車等の障害物の多さ」をあげる割合が高く、64%となっている。ついで、「公共交通機関等の階段の多さ、改札口の狭さ」(約46%)、「道路の段差や傾斜」(約30%)が続いている。

問 21. バリアフリー面での大きな課題①物理的な障壁



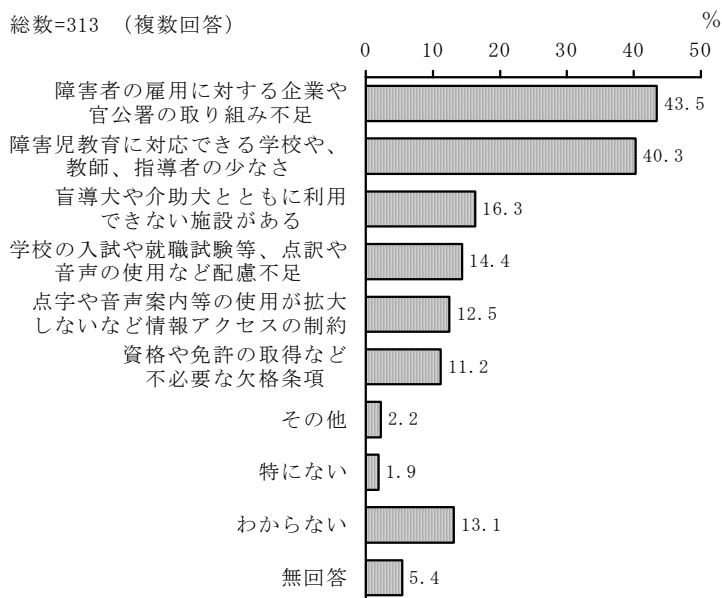
② 社会的な障壁

○制度や仕組みなど社会的な障壁としては、全体では「障害者の雇用に対する企業や官公署の取り組み不足」(約44%)、「障害児教育に対応できる学校や、教師、指導者の少なさ」(約40%)を挙げる割合が高い。

○「学校の入試や就職試験等、点訳や音声の使用などの配慮不足」、「点字や音声案内等の使用が拡大しないなど情報アクセスの制約」など、情報バリアフリーについては10%台となっている。

問 21. バリアフリー面での大きな課題②社会的な障壁

総数=313 (複数回答)

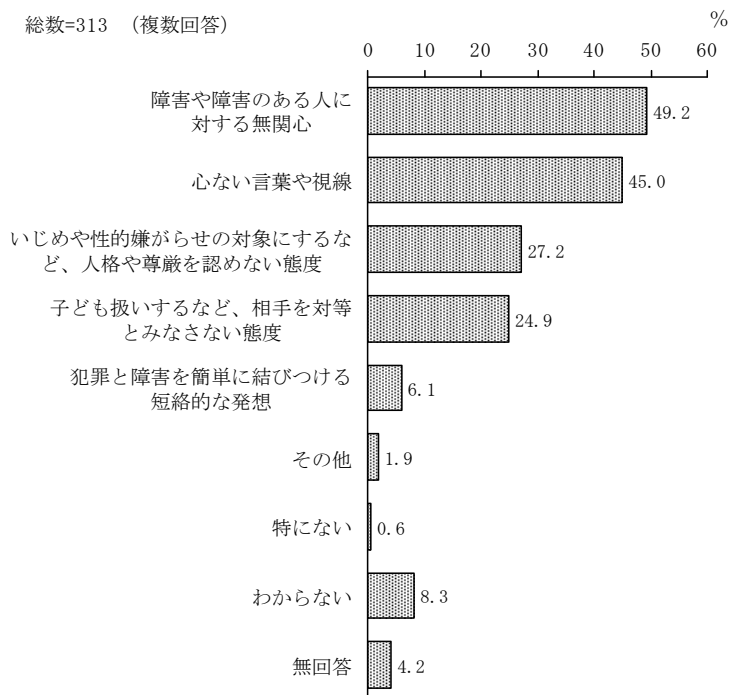


③ 心理的な障壁

○人々の偏見や誤解など心理的な障壁としては、「障害や障害のある人に対する無関心」、「心ない言葉や視線」が40%を超えて、高くなっている。

問 21. バリアフリー面での大きな課題③心理的な障壁

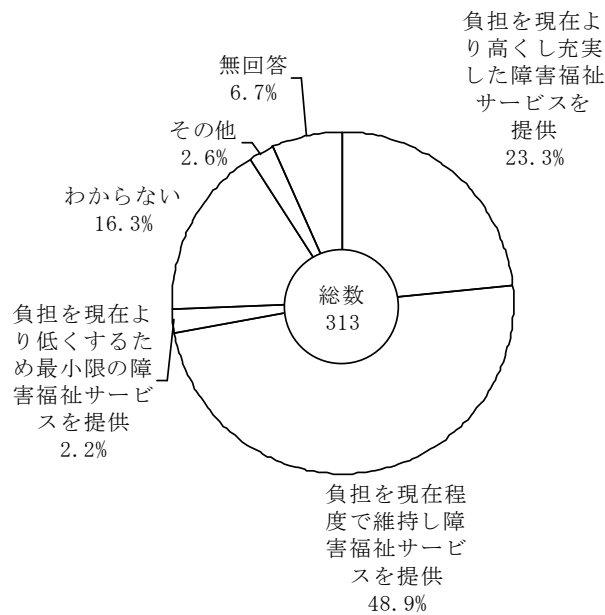
総数=313 (複数回答)



(4) 今後の障害福祉サービスと社会負担のバランス

- 全体では、「負担を現在程度で維持し、障害福祉サービスを提供」が約49%で最も高くなっている。「負担を現在よりも高くし、充実した障害福祉サービスを提供」も23%で、4人に1人の割合となっている。「負担をより低くするため、最小限の障害福祉サービスを提供」とする割合は約2%で少数である。
- 男女で回答傾向に大きな違いはなく、負担を現在程度で維持しサービスを提供するのがよいとする割合が半数を占める。年代別では、「負担を現在よりも高くし、充実したサービスを提供」とする割合が、40歳代（約31%）、60～64歳（約37%）で全体より高い傾向が見られる。

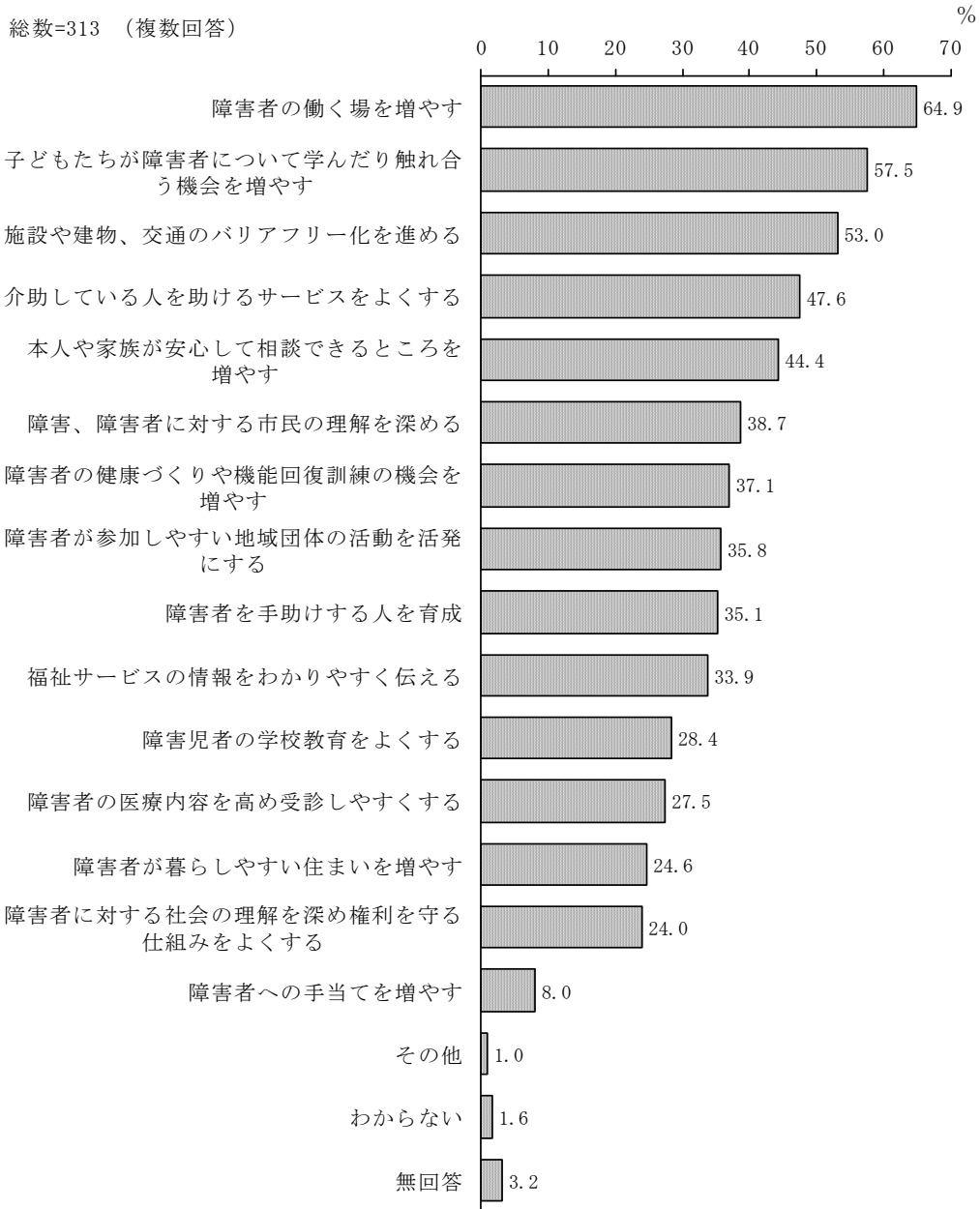
問 22. 今後の障害福祉サービスと社会負担のバランス



(5) すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと

○障害のある人もない人も、自立して共に社会に参加し、自分らしく生きることのできる社会とするために、特に重要なこととして、全体では「障害者の働く場を増やす」(約65%)、「子どもたちが障害者について学んだり、触れ合う機会を増やす」(約58%)、「施設や建物、交通のバリアフリー化を進める」(約53%)などが半数を超えて高くなっている。

問 23. すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと



○属性別に見ると、全体で上位の項目には大きな違いはないが、「障害、障害者に対する市民の理解を深める」は40歳代で、「子どもたちが障害者について学んだり触れ合う機会を増やす」については、30歳代、40歳代で全体を10ポイント以上、上回っている。また、「障害者の健康づくりや機能回復訓練の場を増やす」は50歳代、60～64歳の層で全体を10ポイント以上、上回っている。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層は、「ない」層と比べて、どの項目も回答率が高い傾向があり、障害者施策の全般的な充実が必要と考えている様子が読み取れる。

問 23. すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと

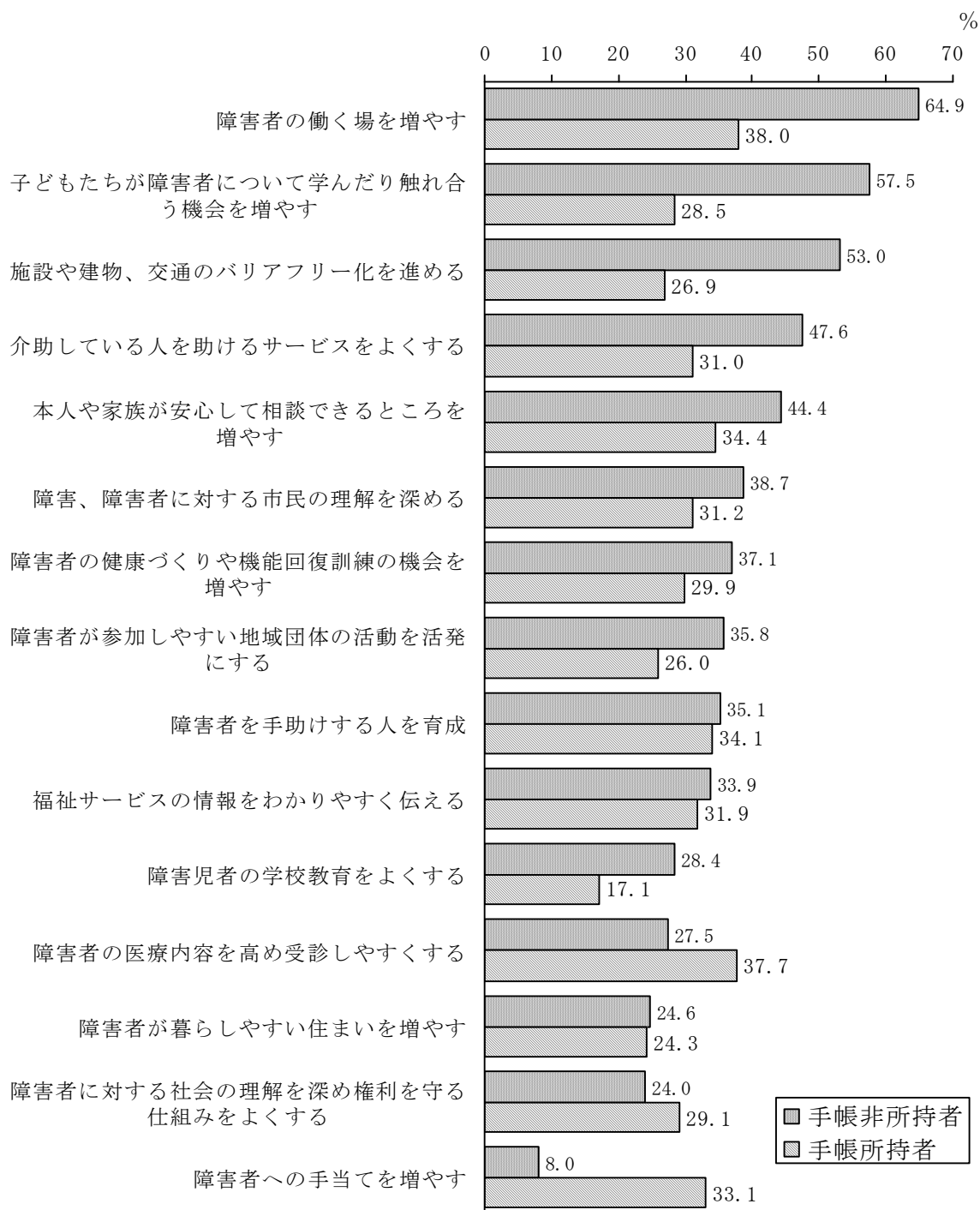
×性別・年齢別・支援活動別

	全体	項目																			
		障害者の働く場を増やす	子どもたちが障害者について学んだり触れ合う機会を増やす	施設や建物、交通のバリアフリー化を進める	介助している人を助けるサービスをよくする	本人や家族が安心して相談できる場所を増やす	障害、障害者に対する市民の理解を深める	障害者の健康づくりや機能回復訓練の機会を増やす	障害者が参加しやすい地域団体の活動を活発	障害者を手助けする人を育成	福祉サービスの情報をわかりやすく伝える	障害児者の学校教育をよくする	障害者の医療内容を高め受診しやすくする	障害者が暮らしやすい住まいを増やす	障害者に対する社会の理解を深め権利を守る仕組みをよくする	障害者への手当てを増やす	その他	わからない	無回答		
全体 (0)	313 100.0	203 64.9	180 57.5	166 53.0	149 47.6	139 44.4	121 38.7	116 37.1	112 35.8	110 35.1	106 33.9	89 28.4	86 27.5	77 24.6	75 24.0	25 8.0	3 1.0	5 1.6	10 3.2		
性別	男性 (1)	128 100.0	81 63.3	70 54.7	68 53.1	57 44.5	48 37.5	46 35.9	46 35.9	44 34.4	44 34.4	37 28.9	36 28.1	27 21.1	34 26.6	13 10.2	1 0.8	2 1.6	4 3.1		
	女性 (2)	178 100.0	117 65.7	108 60.7	95 53.4	89 50.0	79 44.4	70 39.3	68 38.2	63 35.4	63 35.4	60 33.7	51 28.7	47 26.4	48 27.0	39 21.9	10 5.6	2 1.1	3 1.7	6 3.4	
	無回答 (3)	7 100.0	5 71.4	2 28.6	3 42.9	3 42.9	3 42.9	3 42.9	2 28.6	3 42.9	3 42.9	2 28.6	1 14.3	3 42.9	2 28.6	2 28.6	2 28.6	-	-	-	-
	16～29歳 (1)	49 100.0	32 65.3	27 55.1	28 57.1	25 51.0	21 42.9	19 38.8	20 40.8	14 28.6	15 30.6	20 40.8	13 26.5	21 42.9	19 38.8	13 26.5	4 8.2	1 2.0	2 4.1	3 6.1	
30～39歳 (2)	82 100.0	56 68.3	57 69.5	47 57.3	34 41.5	35 42.7	36 43.9	25 30.5	24 29.3	25 30.5	27 32.9	21 25.6	17 20.7	17 22.0	18 22.0	8 9.8	-	-	-	1 1.2	
40～49歳 (3)	49 100.0	31 63.3	34 69.4	28 57.1	27 55.1	17 34.7	24 49.0	13 26.5	19 38.8	21 42.9	18 36.7	23 46.9	9 18.4	14 28.6	16 32.7	3 6.1	2 4.1	2 4.1	2 -		
50～59歳 (4)	54 100.0	32 59.3	29 53.7	25 46.3	28 51.9	28 51.9	17 31.5	27 50.0	23 42.6	16 29.6	22 40.7	10 18.5	19 35.2	9 16.7	9 16.7	3 5.6	-	-	-	1 1.9	
60～64歳 (5)	19 100.0	13 68.4	11 57.9	10 52.6	11 57.9	10 52.6	4 21.1	9 47.4	10 52.6	9 47.4	7 36.8	8 42.1	7 36.8	2 10.5	5 26.3	1 5.3	-	-	-	1 5.3	
65歳以上 (6)	58 100.0	37 63.8	22 37.9	28 48.3	23 39.7	23 46.6	20 34.5	21 36.2	22 37.9	23 39.7	16 19.0	22 22.4	13 20.7	12 13.8	8 22.4	13 8.6	5 -	1 1.7	4 6.9		
無回答 (7)	2 100.0	2 100.0	-	-	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	
支援活動	障害者支援活動参加あり (1)	86 100.0	62 72.1	56 65.1	56 65.1	51 59.3	45 52.3	42 48.8	37 43.0	36 41.9	34 39.5	35 40.7	34 39.5	32 37.2	29 33.7	29 10.5	9 -	-	-	1 1.2	
	障害者支援活動参加なし (2)	204 100.0	127 62.3	112 54.9	103 50.5	89 43.6	82 40.2	76 37.3	69 33.8	70 34.3	66 32.4	61 29.9	49 24.0	52 25.5	46 22.5	44 21.6	14 6.9	3 1.5	5 2.5	7 3.4	
	無回答 (3)	23 100.0	14 60.9	12 52.2	7 30.4	9 39.1	12 52.2	3 13.0	10 43.5	6 26.1	10 43.5	10 43.5	6 26.1	2 8.7	2 8.7	2 8.7	2 8.7	-	-	-	2 8.7

- 手帳所持者の回答傾向と比較すると、手帳所持者では全般的にまんべんなく施策が必要とされているなかで、働く場、医療、相談、障害者を手助けする人の育成、手当での割合がやや高い。これに対し、手帳非所持者においては、働く場が第1位、相談についても上位にあるが、医療や手当の充実などについては、手帳所持者ほど必要性の認識が強くない。
- 子どもたちが障害者について学んだり、障害者に対する理解を深めたりするなど、社会の理解を深めるための施策は、手帳所持者、手帳非所持者ともに、必要性が比較的高いとしている。

問 23. すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと

—手帳所持者との比較—



IV 自由意見

記述式による意見欄には、のべ 597 件の意見、要望が寄せられた。主な意見と件数は次のとおりである。

1 経済的な支援

項目	意見の概要	件数		
		精神障害	知的障害	身体障害
障害者年金	生活保護と障害者年金が合わせて適用されるようにしてほしい	1	0	0
	障害者年金が下りない	2	0	3
介護保険	介護保険適用範囲を拡大してほしい	1	0	1
その他	経済的にいつまで治療を受けられるのか分からない、医療費が高い	3	0	11
	生活保護の障害者加算、障害福祉手当を増やしてほしい	2	0	2
	安心して暮らせるよう支えてほしい	3	13	32
	消費税が上がるから福祉税にしてもらいたい	1	0	0
	計	13	13	49

2 福祉制度について

項目	意見の概要	件数		
		精神障害	知的障害	身体障害
行政一般	障害福祉制度や利用可能なシステムを分かりやすくしてほしい	4	6	7
	障害福祉情報(手続き方法、活動内容等)の入手が困難(ホームページ・掲示板・冊子を充実してほしい、視覚障害者用に音声情報が欲しい等)	0	3	31
	担当者がよく代わる。事情や病状の説明を繰り返さなくてもいいようにしてほしい	1	2	0
	窓口を増やしてほしい、市役所窓口の受付時間を延長してほしい	2	4	9
	市役所の窓口が、どこに行けば(電話したら)いいのか分かりにくい、手続きをわかりやすくしてほしい	2	2	5
	身体・知的・精神障害者を同一の福祉、介助制度で統一するには無理がある	0	1	0
	役所、銀行、病院等の処理を代行する法定代理人制度についての説明や広報をしてほしい	1	0	1
	財政計画を念頭に置いて民間の力を活用してほしい	0	0	2
	「障害」か「障がい」のどちらかに出版物等の表記を統一するべきである	0	0	1
	福祉関係窓口投書箱を設置してほしい	0	0	1
	関係者の思いやりある対応が欲しい	0	0	4

(つづく)

高齢・障害者	緊急用報知器の設置や定期的な家庭訪問をして欲しい	0	0	2
	オムツを無料で支給して欲しい	0	0	5
	賃貸住宅を借りるのが難しい、施設入所をしやすくして欲しい	0	0	15
サービス	デイサービス、ヘルパーを増やして欲しい、充実して欲しい(質や回数等)	1	4	6
	補聴器の電池を無料で支給して欲しい、修理が簡単にできるようにして欲しい	0	0	1
	健康相談所が欲しい	0	0	1
	針灸の補助券、マッサージ券を発行して欲しい	0	0	2
	電車内等で障害(心臓ペースメーカーの使用、内臓の障害)を他者に知らせるワッペンのような物が欲しい	0	0	3
	マッサージ一覧表に地図をつけて欲しい	0	0	1
	デイケア以外で、気楽に話し合える友達が欲しい	1	0	2
	在宅のヘアカットサービスが欲しい	1	0	0
	介助者へのケアを充実して欲しい	1	0	2
施設	福祉施設を充実させて欲しい	2	5	3
	医療機関を充実させて欲しい	0	1	1
	統合性失調とうつ病の快復環境を分けて欲しい	1	0	0
	市川市内に施設を作って欲しい(リハビリ施設・通所施設が少ない等)	0	11	12
自立支援法	医療費・薬代など負担が大きくて困る。前の制度に戻して欲しい	4	11	11
	手続きが分かりにくい、書類を簡単にして欲しい	3	0	9
	計	24	50	137

3 社会環境

項目	意見の概要	件数		
		精神障害	知的障害	身体障害
安全	地域安全対策が必要	1	1	4
	災害時に避難できるのか、健常者と避難生活ができるのか対策が必要	0	6	4
交通	横断歩道が少ない、スクランブル交差点を増やして欲しい	1	0	0
	利用料金が高い(無料にして欲しい、タクシー券が欲しい等)	0	0	10
	電車内で聴覚障害者のための文字情報が欲しい(遅延のお知らせ等)	0	0	2
	歩道を走っている自転車が怖い	1	0	9
	交通の便が悪い、使いにくい(バスの路線が少ない、駐車場が少ない、駅構内にエレベーター・エスカレーターがない等)	1	3	13

(つづく)

	補装具の貸出しや修理等を支所でもできるようにして欲しい	0	0	2
	駅周辺の駐輪場を整備して欲しい	0	0	2
	障害者同士の交流を図りたいので、市川市主催の行事を増やして欲しい	0	4	3
	バリアフリーの推進、道路や学校内の改善が必要	1	2	34
施設、設備	古い建物が多く、トイレの印象が悪い。きれいにして欲しい	1	0	0
	街中に休憩のためのベンチを増やして欲しい	0	0	1
	保健所のデイケアだけでなく、身近な場所に集う所が欲しい	1	3	1
学校	知的障害児を普通学級でなかなか受け入れてもらえない。普通学級に入りやすくして欲しい	0	7	0
	車椅子の子供が入れる幼稚園がない	0	0	1
	情緒障害学級や特別学級をもっと増やして欲しい	0	1	0
	高校卒業まで障害児を学童保育で受け入れて欲しい	0	1	0
	障害者本人が通う学校内での福祉の充実や、先生の補充のお願い	0	4	0
就労	職が見つからない、見つかったもすぐリストラされてしまう	2	2	1
	障害者のための就職斡旋窓口を設けて欲しい	0	1	3
	給料が安い	1	3	2
	職場、会社、上司からの差別に対する不満	2	1	1
	計	12	39	93

4 その他

項目	意見の概要	件数		
		精神障害	知的障害	身体障害
不安感や差別について	病状や将来の状況に対する不安、心情の吐露	24	9	18
	介助者が居なくなった時の心配や不安	3	14	12
	見た目や障害者手帳の等級だけで度合を判断しないで欲しい	0	3	0
	障害に対する理解が欲しい	2	9	17
	自然をこれ以上破壊せず、自然散策ができる町にして欲しい	0	1	0
	結婚できない	1	1	0
	差別、人権侵害への不満	4	1	1
その他	アンケートが難しい、内容が多い、理解しにくい	2	4	13
	アンケートの結果を知りたい	0	0	1
	市の取り組みへの謝辞	7	3	17
	計	43	45	79